



# 米国株 MARKET PICK UP



## 先週の米国株式市場—ダウ平均が初めて1万8000ドルの大台を突破—

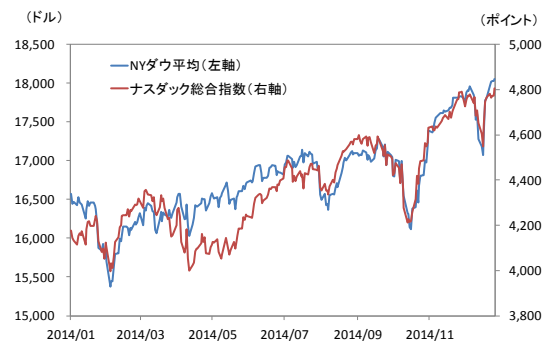
|           | 前週終値      | 12月22日    | 12月23日    | 12月24日    | 12月25日 | 12月26日    | 週間騰落幅   | 週間騰落率  |
|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|--------|-----------|---------|--------|
| ダウ平均      | 17,804.80 | 17,959.44 | 18,024.17 | 18,030.21 | 休場     | 18,053.71 | +248.91 | +1.40% |
| 騰落幅       |           | +154.64   | +64.73    | +6.04     |        | +23.50    |         |        |
| S&P500    | 2,070.65  | 2,078.54  | 2,082.17  | 2,081.88  |        | 2,088.77  |         |        |
| 騰落幅       |           | +7.89     | +3.63     | -0.29     | +6.89  | +18.12    | +0.88%  |        |
| ナスダック総合指数 | 4,765.38  | 4,781.42  | 4,765.42  | 4,773.47  | 休場     | 4,806.86  | +41.48  | +0.87% |
| 騰落幅       |           | +16.04    | -16.00    | +8.05     |        | +33.39    |         |        |

### <先週の概況>

先週の米国株式市場は続伸しました。クリスマス前後で材料難、薄商いながらもFOMC（連邦公開市場委員会）の発表後に急反発した前週の流れを引き継ぎ、ダウ平均は週を通して買いが優勢となりました。23日にはダウ平均は初めて1万8000ドルの大台を突破しました。

S&P500も史上最高値を更新、ハイテク株比率の高いナスダック総合指数は年初来高値を更新しています。

NYダウ平均とナスダック総合指数の推移



(出所) Bloombergのデータをもとにマネックス証券作成

## 米国株式市場バリュエーション

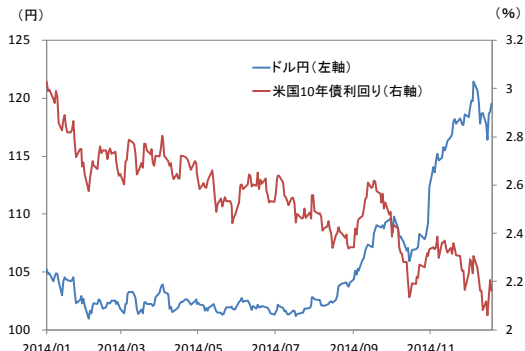
|           | 前週終値      | 12月22日    | 12月23日    | 12月24日    | 12月25日 | 12月26日    | 週間騰落幅   | 週間騰落率  |
|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|--------|-----------|---------|--------|
| ダウ平均      | 17,804.80 | 17,959.44 | 18,024.17 | 18,030.21 | 休場     | 18,053.71 | +248.91 | +1.40% |
| 騰落幅       |           | +154.64   | +64.73    | +6.04     |        | +23.50    |         |        |
| S&P500    | 2,070.65  | 2,078.54  | 2,082.17  | 2,081.88  |        | 2,088.77  |         |        |
| 騰落幅       |           | +7.89     | +3.63     | -0.29     | +6.89  | +18.12    | +0.88%  |        |
| ナスダック総合指数 | 4,765.38  | 4,781.42  | 4,765.42  | 4,773.47  | 休場     | 4,806.86  | +41.48  | +0.87% |
| 騰落幅       |           | +16.04    | -16.00    | +8.05     |        | +33.39    |         |        |

S&P500と騰落レシオの推移



(出所) Bloombergのデータをもとにマネックス証券作成

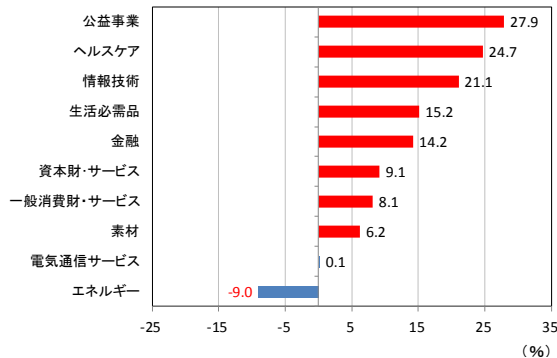
ドル円と米国長期金利の推移



(出所) Bloombergのデータをもとにマネックス証券作成

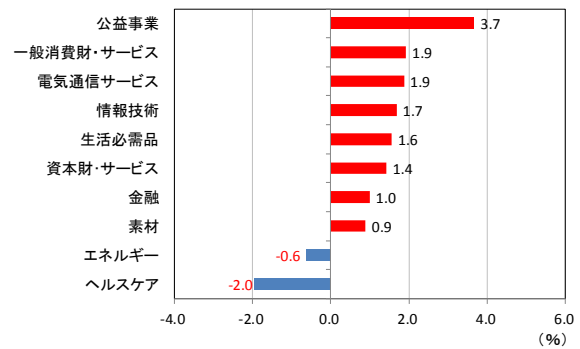
## 業種別リターン

S&P500 業種別年初来リターン



(出所) Bloombergのデータをもとにマネックス証券作成

S&P500 業種別週間リターン



(出所) Bloombergのデータをもとにマネックス証券作成

## ダウ平均採用銘柄 週間騰落率ランキング

値上がり率ランキング(12/22-12/26)

| ティッカー | 銘柄名                | 週間騰落率 (%) |
|-------|--------------------|-----------|
| BA    | ボーイング              | 4.3       |
| INTC  | インテル               | 3.2       |
| CAT   | キャタピラー             | 2.7       |
| DD    | イー・アイ・デュポン・ドゥ・ヌメール | 2.5       |
| IBM   | IBM                | 2.4       |
| KO    | ザ コカ・コーラカンパニー      | 2.4       |
| DIS   | ウォルト・ディズニー         | 2.3       |
| NKE   | ナイキ                | 2.1       |
| CSCO  | シスコシステムズ           | 2.1       |
| WMT   | ウォルマート・ストアーズ       | 2.1       |

(出所) マネックス証券作成

値下がり率ランキング(12/22-12/26)

| ティッカー | 銘柄名             | 週間騰落率 (%) |
|-------|-----------------|-----------|
| MRK   | メルク             | -3.0      |
| PFE   | ファイザー           | -0.9      |
| JNJ   | ジョンソン・エンド・ジョンソン | -0.5      |
| XOM   | エクソンモービル        | -0.5      |

(出所) マネックス証券作成

### <上昇>

ダウ平均採用の 30 銘柄中 26 銘柄が値上がりしました。インテル (INTC)、IBM (IBM)、シスコシステムズ (CSCO) などハイテク関連株の値上がりが目立ちました。

### <下落>

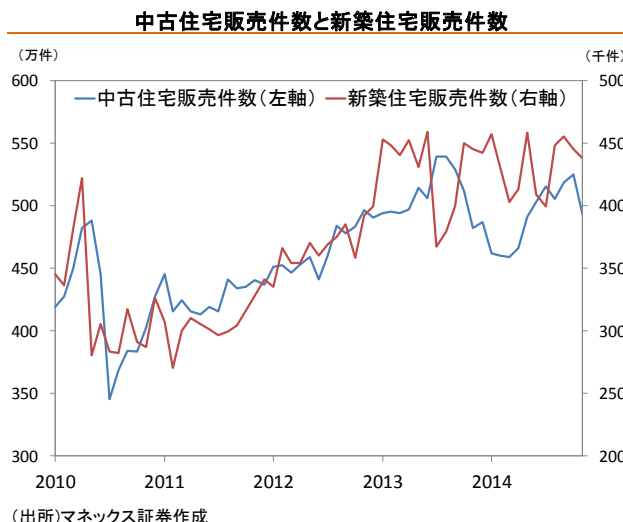
メルク (MRK)、ファイザー (PFE)、ジョンソン・エンド・ジョンソン (JNJ) の薬品関連 3 社が軟調でした。また、エクソンモービル (XOM) も原油価格の大幅な反発が見られなかったことから小幅に値下がりしました。

先週発表された主な経済指標

22日 中古住宅販売件数 11月 493万件 市場予想 520万件 前月 525万件  
 23日 新築住宅販売件数 11月 43.8万件 市場予想 46.0万件 前月 44.5万件

22日に中古住宅販売件数、23日に新築住宅販売件数が発表されました。結果的にはFOMC（連邦公開市場委員会）が声明文で指摘しているように米国の住宅市場の回復が鈍いことを示す格好となりました。

中古住宅販売件数は年率換算 493 万件と前月から 6.1% の減少で、市場予想を大きく下回りました。新築住宅販売件数も前月から減少しました。住宅市場の回復加速は来年に持ち越しとなりそうです。

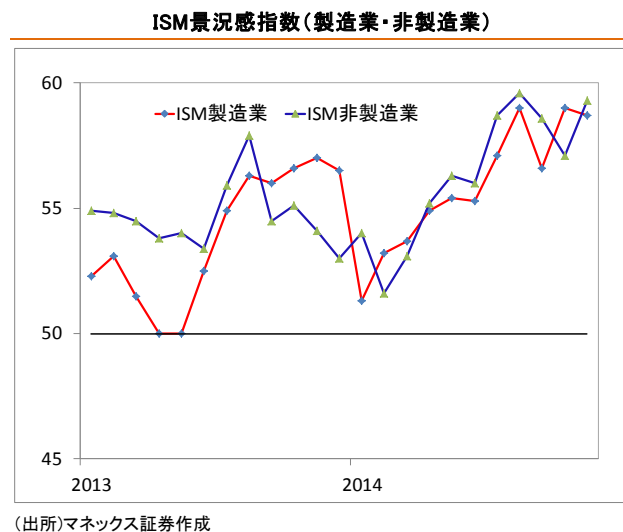


今後発表される主な経済指標

1月2日 12月ISM 製造業景況感指数 市場予想 57.5 前月 58.7

1月2日に12月分のISM 製造業景況感指数が発表されます。2014年の米国経済は昨冬に米国を襲った大寒波の影響で年初に一時的に停滞し、一時は企業の景況感が低下する場面が見られました。

ただ、ISM 製造業景況感指数は春先から回復に転じると、夏場以降は改善と悪化の境目となる50を大きく上回って推移し、8月には2011年3月以来約3年半ぶりの高水準となる59をつけました。12月分は前月からやや低下が見込まれながらも引き続き高水準が予想されています。



## マーケットビュー—ダウ平均は 1 万 8000 ドルの大台を維持できるか注目—

先週のマーケットビューでは、一時的に材料難ながらもダウ平均が 1 万 8000 ドルに到達できるか注目と記しました。結果的に小動きが続きながらもダウ平均は 1 万 8000 ドルに到達しました。

年末年始で薄商いとなるなかこのまま 1 万 8000 ドルの大台を維持できるかというところがマーケットの注目ポイントとなりそうです。また、今週末に ISM 製造業景況感指数、翌週には雇用統計など市場の注目度の高い重要指標の発表が予定されており、マーケットの材料となりそうです。

本年は「米国株 MARKET PICK UP」をお読みいただき誠にありがとうございました。もっと投資家の皆様のお役に立てるレポートを目指すべく改善を重ねてまいります。来年も何卒よろしくお願い致します。

フィナンシャル・インテリジェンス部 益嶋 裕

### 利益相反に関する開示事項

マネックス証券株式会社は、契約に基づき、オリジナルレポートの提供を継続的に行うことに対する対価を契約先証券会社より包括的に得ておりますが、本レポートに対して個別に対価を得ているものではありません。レポート対象企業の選定はマネックス証券が独自の判断に基づき行っているものであり、契約先証券会社を含む第三者からの指定は一切受けておりません。レポート執筆者、並びにマネックス証券と本レポートの対象会社との間には、利益相反の関係はありません。

- ・当社は、本レポートの内容につき、その正確性や完全性について意見を表明し、また保証するものではありません。
- ・記載した情報、予想および判断は有価証券の購入、売却、デリバティブ取引、その他の取引を推奨し、勧誘するものではありません。
- ・過去の実績や予想・意見は、将来の結果を保証するものではありません。
- ・提供する情報等は作成時現在のものであり、今後予告なしに変更又は削除されることがございます。
- ・当社は本レポートの内容に依拠してお客様が取った行動の結果に対し責任を負うものではありません。
- ・投資にかかる最終決定は、お客様ご自身の判断と責任でなさるようお願いいたします。
- ・本レポートの内容に関する一切の権利は当社にありますので、当社の事前の書面による了解なしに転用・複製・配布することはできません。

マネックス証券株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第 165 号  
 加入協会: 日本証券業協会、一般社団法人 金融先物取引業協会、  
 一般社団法人 日本投資顧問業協会